

川上村

東部暮らしの拠点周辺地区まちづくり基本構想 ～暮らしつつける郷(まち)づくり～

<目次>

1. 川上村の概況	... 2
2. 川上村の郷(まち)づくりの考え方	...10
3. 東部地区の概況	...12
4. 地区の課題設定	...18
5. 郷(まち)づくりのコンセプト	...19
6. 郷(まち)づくりの基本方針・基本となる取組	...20
7. 基本構想図	...21

(1)人口

①人口推移と今後の予測

- 対応すべき問題の多い川上村において、特に重点的に取組むべきこととして人口対策があげられる。
- 1955(昭和30)年の8,132人をピークとする人口は、その後一貫して減少しており、1985(昭和60)年には高齢者人口(65歳以上)数が年少人口(0~14歳)数を追い抜いた。
- 2015(平成27)年国勢調査による人口は総数が1,313人、年少人口が59人(4.5%)、生産年齢人口が483人(36.8%)、高齢者人口が771人(58.7%)となっている。
- 今後の人口については、国立社会保障・人口問題研究所による推計、日本創成会議による推計のいずれも人口減少が予測されるところであり、日本創成会議の推計によれば、人口の再生産を中心的に担う20~39歳の女性人口が減少し続けることで、今後も人口移動が収束しない場合には、消滅の可能性もあり得ることが指摘されている。

【川上村の総人口、年齢3区分別人口の推移(国勢調査)】



【平成以降の人口推移と予測】

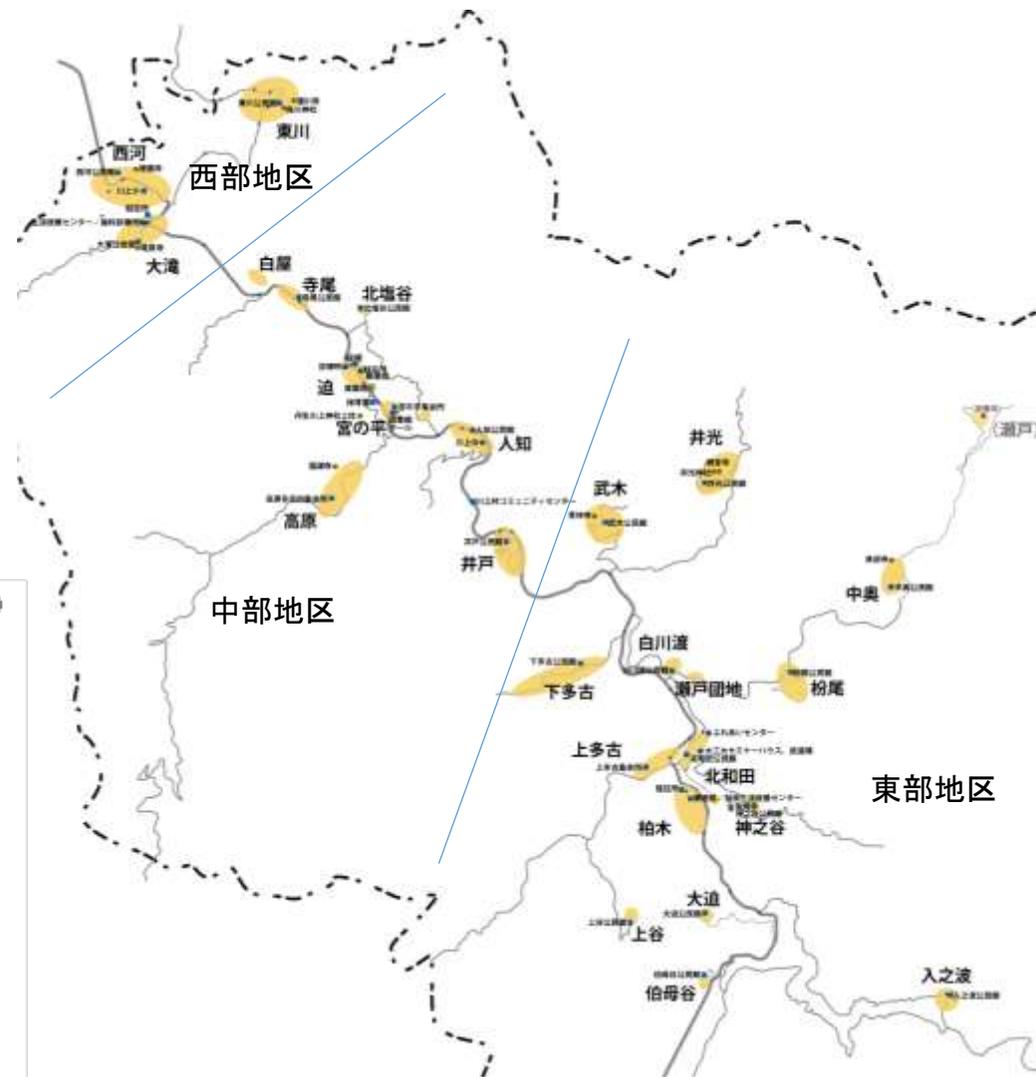


出所: 第5次川上村総合計画

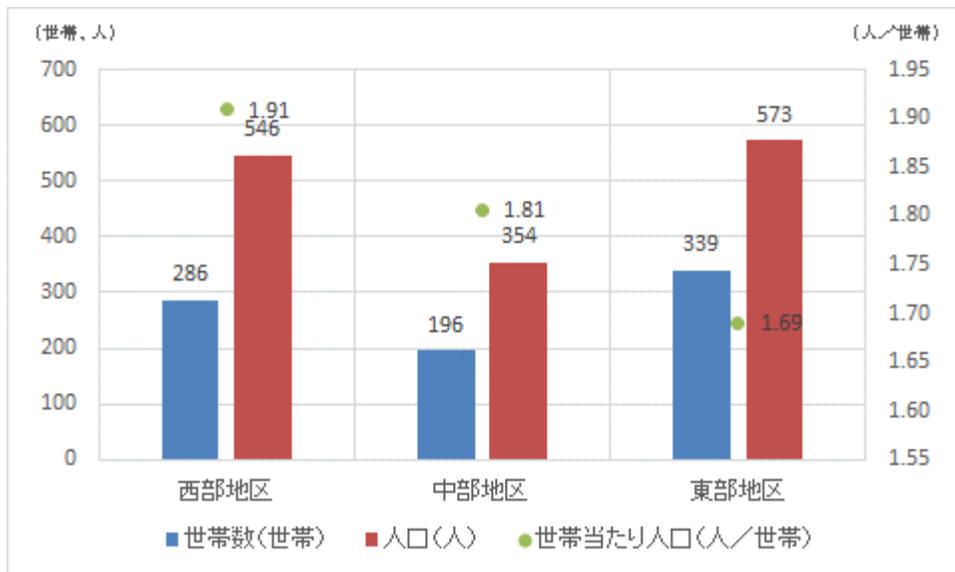
②地区別の人口

- 村内には26大字があり、それぞれに集落が形成されている。いずれの集落も村全体と同様、少子化・高齢化・人口減少が問題となっており、地域コミュニティの維持・強化を図ることが求められている。
- 特に東部地区には人口20人を下回る集落が複数存在するなど、あまりにも小規模でコミュニティ維持が困難な集落や、支線沿いに形成された交通等の不便な集落も多い。

【大字(集落)の分布と地区区分】



【住民基本台帳人口(平成29年10月31日現在)】



③高齢者の暮らし

- 65歳以上の全住民を対象として約8割の回答を得た「高齢者暮らしアンケート調査」によると、東部地区では、一人暮らしの高齢者の占める割合の高い集落が多い。

- また、ふだんの外出頻度が週1日以下だという高齢者は、西部および東部地区の大半の集落で4割以上となっている。
- 介助・介護が必要になるような将来になった場合、その生活は村外になると考えている高齢者は、西部地区では各集落4割未満である一方、東部地区では7集落が4割以上である。

【一人暮らし】

【外出頻度が「週1日以下」】

【「将来は村外で」と考えている】

西部
地区

中部
地区

東部
地区



(2)環境

①自然環境

- 川上村は、台高山脈から流れる吉野川・紀の川が村の中央部を貫流してV字谷を形成しており、大半が急峻な山岳地帯となっている。このため平坦なまとまった土地が少なく、宅地などに適した希少な敷地は、有効活用が求められる。
- また、大迫ダム、大滝ダムの2つのダムが建設されており、下流域にかけがえのない水を供給する水源地として重要な役割を担っている。

【自然環境】



出所:第5次川上村総合計画

②林業・木材産業

- 村を取り囲む山々は杉や桧の育成に適しており、吉野杉の主産地を形成している。川上村をはじめとする吉野地方では、500年程前より植林が始められ、木材の需要が飛躍的に増加した江戸時代に、森林資源の維持を目的とした造林が始まっている。
- 大滝集落の山林地主の家に生まれた土倉庄三郎は、天保11(1840)年に16歳で家督を継いで以降、林業の発展に力を入れ、吉野林業の中興の祖と呼ばれている。優れた多くの材木を生産できるよう独自の造林法「土倉式造林法」を生み出し、全国各地でその技術を広めて、成果をあげた郷土の偉人である。
- 現在は全国的にも低迷する林業の再興に向けて、村内4つの林業関係団体が連携して「吉野かわかみ社中」を設立し、川上産吉野材の生産から販売までの供給一貫体制の確立を推進している。

【林業・木材産業ゾーンと拠点、村有林】



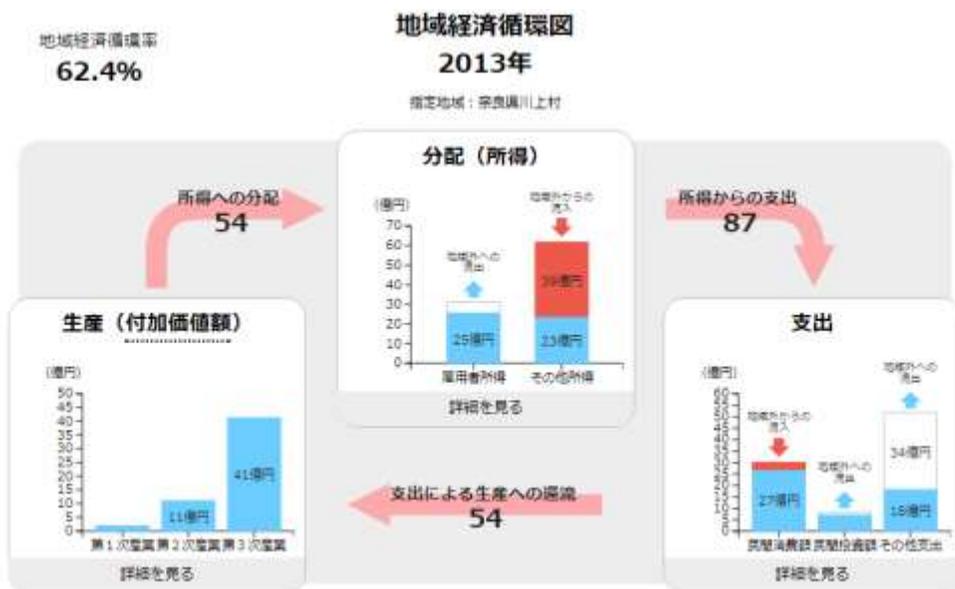
出所:第5次川上村総合計画(一部加筆)

(3) 経済・産業

① 地域経済循環

- 地域経済分析システム (RESAS) による2013年の川上村の地域経済循環率 (生産 (付加価値額) ÷ 分配 (所得)) は62.4%であり、地域外から流入する「その他所得」(財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等)への依存が強い。
- 地域内の住民・企業等に分配された所得が使われる「支出」の面では、企業の設備投資等の「民間投資額」、政府支出、地域内産業の移輸出入収支額等の「その他支出」において域外流出が見られる。
- 「生産」(付加価値額)の面では、第3次産業が他と比べて大きい。

【2013年 地域経済循環図】

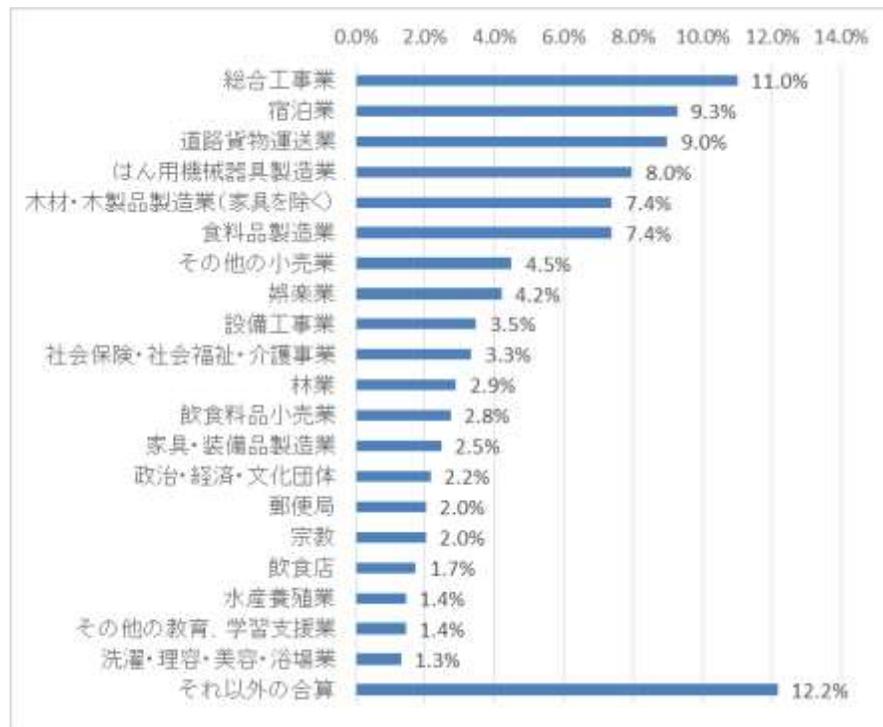


出所: 地域経済分析システム (RESAS)

② 産業構造

- 経済センサスによる2014年従業者数 (事業所単位) は690人で、製造業 (はん用機械器具、木材・木製品、食料品等)、建設業 (総合工事、設備工事等)、宿泊業、道路貨物運送業などが多い。

【2014年 従業者数 (事業所単位) 中分類】



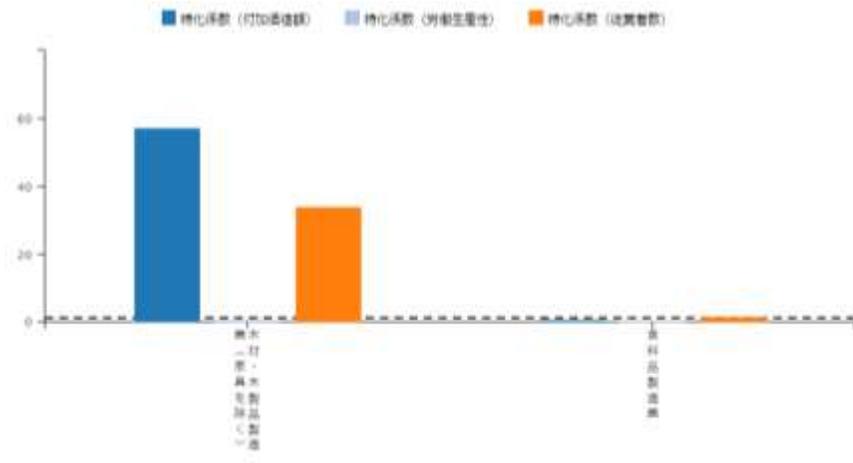
出所: 地域経済分析システム (RESAS) によるデータを加工

③稼ぐ力分析

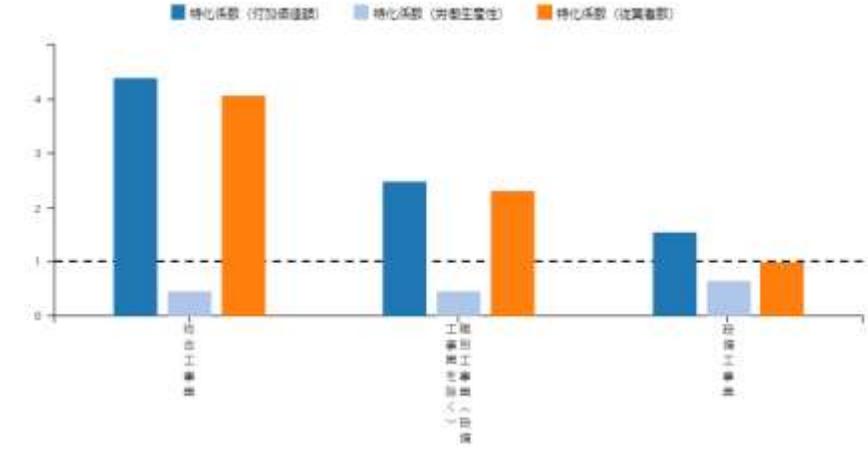
- 主な産業について、特化係数(全国もしくは全国の当該産業を1とした場合の比較)によって特徴を見ると、特に林業の付加価値額は圧倒的である。ただし、労働生産性は全国林業のほぼ平均並みとなっている。

- 製造業、建設業、宿泊業はいずれも付加価値額・従業者数ともに特化係数1を上回る数値であるが、労働生産性は低く、効率的な生産が課題となっている。

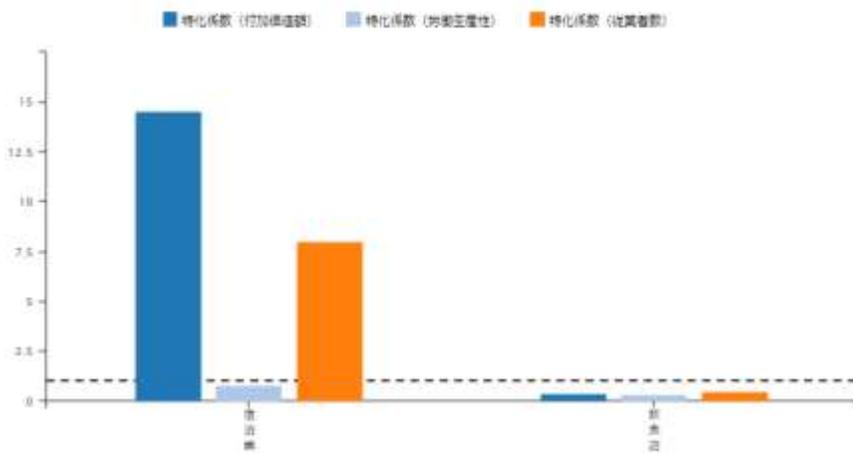
【2012年 製造業の特化係数】



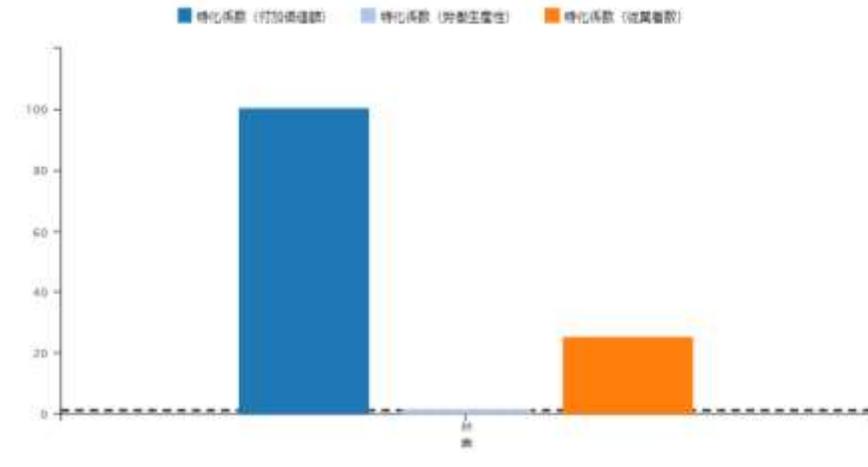
【2012年 建設業の特化係数】



【2012年 宿泊業、飲食サービス業の特化係数】



【2012年 林業の特化係数】



出所: 地域経済分析システム (RESAS) ※全グラフ

④観光

- 村の自然環境や温泉等を活かした観光に取り組んでいる。日帰り観光客数は合算で22万5千人(平成28年度)で、このほかにも蜻蛉の滝(約10万人)やその他の川遊び(約1.5万人)等で訪れる観光客がいるものと想定される。
- 村内の宿泊施設での宿泊総数は平成28年度が約1.5万人で、増加傾向にある。

- 川上村など8町村(吉野町、下市町、黒滝村、天川村、下北山村、上北山村、東吉野村)は、吉野林業500年の造林と文化が高く評価され、「美林連なる造林発祥の地“吉野”」として文化庁に「日本遺産吉野」として認定されている。
- また、三重県(大台町)と奈良県(上北山村・川上村・五條市・下北山村・天川村・十津川村)をまたぐ、1市1町5村でユネスコエコパーク「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」が構成されている。生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的として、国内では9件が登録されているうちの一つであり、様々な森を守る活動や環境教育に取り組み、自然と伴走する形での持続可能な発展を目指す“健やかな産業”が営まれている。

【観光客数の推移】



出所:川上村資料

【観光地の分類内訳】

分類	施設等
宿泊	ホテル杉の湯(宿泊)、山鳩湯(宿泊)、旅館朝日館、民宿中奥川、民宿橋戸、民宿紺ちゃん、民宿ログキャビン高原、民宿のどか、民宿かわかみ、民宿なかひら、民宿中西
温泉施設	ホテル杉の湯(入浴日帰り)、ホテル杉の湯(食事日帰り)、山鳩湯(入浴日帰り)
アウトドア	白川渡オートキャンプ場、中井溪谷自然塾、木地ヶ森溪谷、井氷鹿の里もりもり館、大迫ダムつり公園、川上村漁業組合
その他	木工の里、あきつの小野スポーツ公園、もくもく館、てくてく館、不動窟鍾乳洞、学べる建設ステーション／学べる防災ステーション、森と水の源流館、匠の聚、道の駅、やまいき商店

2. 川上村の郷(まち)づくりの考え方

(1) 2つのネットワーク圏の形成

- 川上村は、役場等の公共施設や生活・観光等に関連する主要機能が集積する『中部地区』を中心に、より山間に位置し、地域コミュニティの維持・強化が重要な課題となっている『東部地区』と、村内では最も都市部に近く、近隣市町村とのアクセス優位な立地から人や経済の流動性が高い『西部地区』の3地区から構成される。
- 本村の郷(まち)づくりは、平成6年度から「水源地の村づくり」をコンセプトとして樹・水・人の共生する環境をめざした取組みをスタートさせ、平成27年度からの10年間を計画期間とする第5次総合計画において「都市にはない豊かな暮らしの実現」を掲げて、より具体的なプロジェクトが「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成27年1月)に基づいて動き出している。
- 特に高齢化や過疎化の深刻な集落が多い『東部地区』では、「人」・「仕事」・「子育て・教育」・「暮らし」の4分野を横断する「東部地区暮らしがつづく集落づくりプロジェクト」として、事業主体となる「一般社団法人かわかみらいふ」が設立され、「暮らしを守る」(買い物支援等)、「健康を守る」(巡回診療、健康教室、食生活改善等)、「つながりをつくる」(カフェ、会議・サークル、相互見守り等)、「仕事をつくる」(各種サービス等の事業化等)といった取組みを展開し、「小さな拠点」の設置された北和田集落を中心とする東部地区の集落ネットワーク圏の形成を目指している。
- 『西部地区』は、基幹産業である林業の振興を目指して組成された「一般社団法人吉野かわかみ社中」が中心となり、木材生産(川上)をはじめ、製材・加工・流通(川中)、販売(川下)のまでの一貫した仕組みづくりに取り組んでいる。村外と交流しやすいこの地区は、村内でも居住者の多い集落で構成されており、木材加工をはじめとする立地事業所、アーティストや職人等の集積、公有資産や観光資源の有効活用を図ることなどで、村域の玄関口としてのポテンシャルを高め、一体的な西部地区の集落ネットワーク圏を形成することが期待されている。
- 本村の郷(まち)づくりは、役場の立地する迫集落を拠点とする「中部地区」が全村をカバーするネットワークの要として機能すると共に、これを補完する形で「東部地区」、「西部地区」の2つの集落ネットワーク圏の形成を図り、各地区の特色を活かした郷(まち)づくりの推進と相互の連携によって、『都市にはない豊かな暮らし』を実現させる。



(2) 上位・関連計画との関係性

第5次川上村総合計画 2015年度～2024年度

川上村まち・ひと・しごと創生総合戦略

2015年度～2019年度

- ① 村民が住み続けられる環境づくりを推進し、転居しない、村に住み続けられる村づくりを進めるとともに、
- ② 「村外に転居した子ども・孫のUターン」および「都市部からのIターン」を毎年3世帯確保し、
- ③ 世帯人員4名を実現できる子育て環境づくりについて官民一体となって取り組む

奈良県と川上村との
郷(まち)づくりに関する
包括協定 2017.2.16

「都市にはない豊かな暮らしの実現」

環境プラン

- ◆ きれいな水環境づくり
- ◆ 環境づくり

コミュニティプラン

- ◆ 地区カルテづくり
- ◆ 暮らしの拠点づくり
- ◆ ふる里の味づくり

子育てプラン

- ◆ 教育カリキュラムづくり
- ◆ 地域ぐるみのサポートづくり
- ◆ 住まいづくり

福祉プラン

- ◆ 福祉のサブ拠点づくり
- ◆ 地域ケア会議づくり

産業プラン

- ◆ 林業・木材業再生
- ◆ 川上産吉野材の循環づくり
- ◆ 元気な地域産業づくり

観光プラン

- ◆ 健康と旨処巡り
- ◆ 水源地街道寄り道処案内所づくり

9. 健康で元気な暮らしとコミュニティづくりプロジェクト

2. 東部地区暮らしがつづく集落づくりプロジェクト

8. キラリと光る子育て・教育プランと地域ぐるみのサポートづくりプロジェクト

1. 住宅総合プロジェクト

4. 川上 ing (かわかみんぐ) 作戦

5. 吉野かわかみ社中

6. 源流アカデミープロジェクト

7. しごと応援プロジェクト

3. オール川上観光交流推進プロジェクト

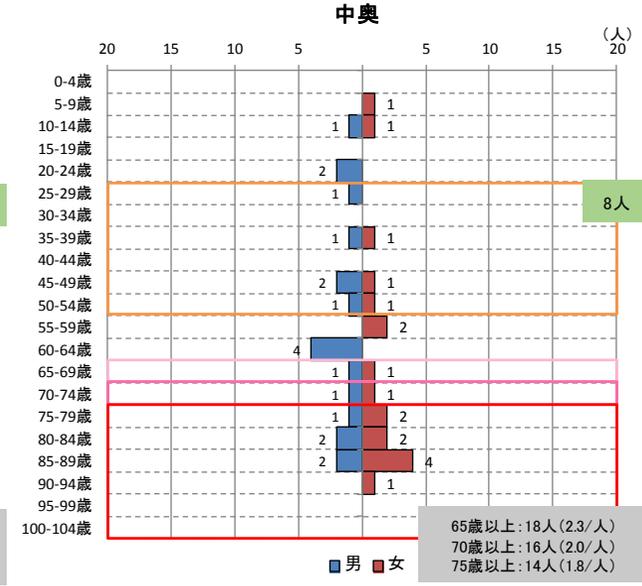
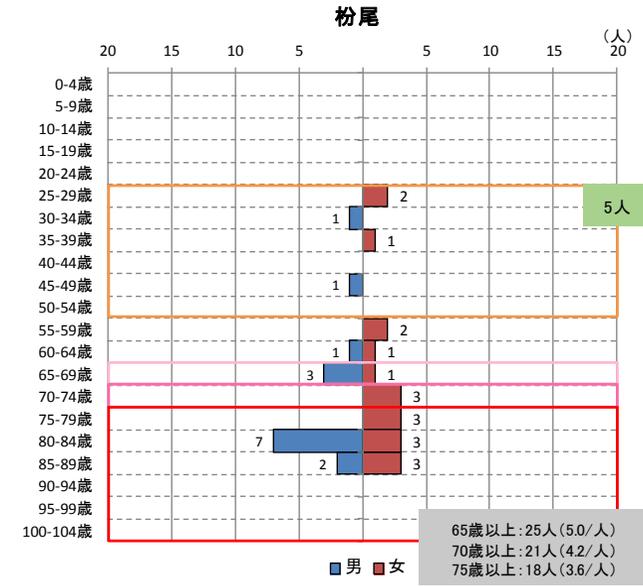
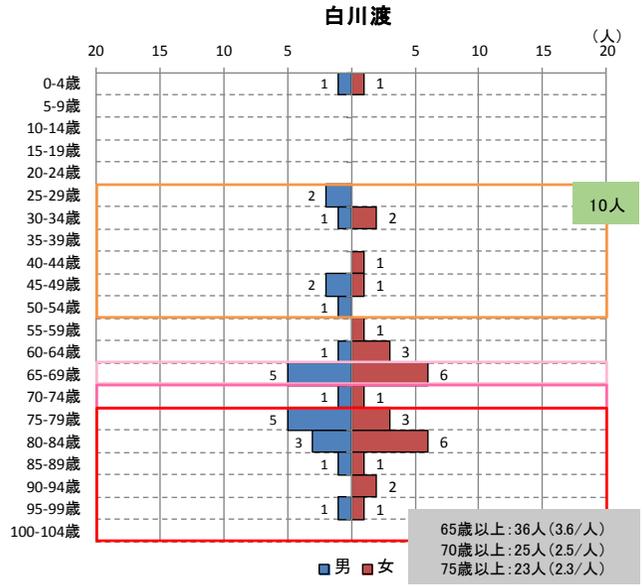
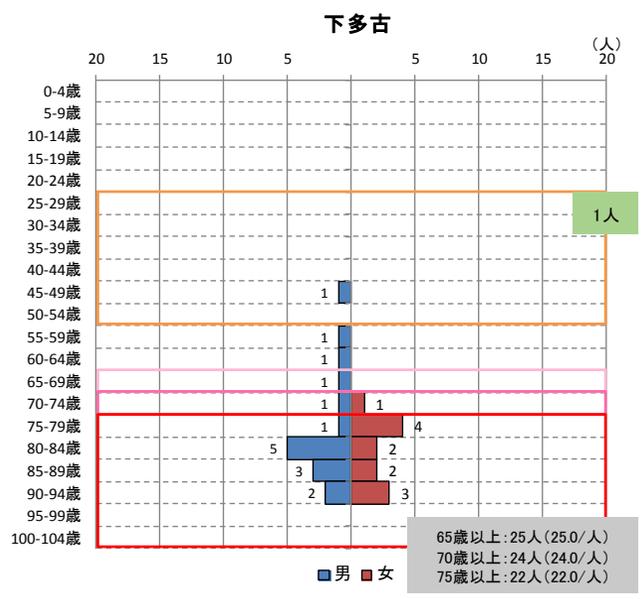
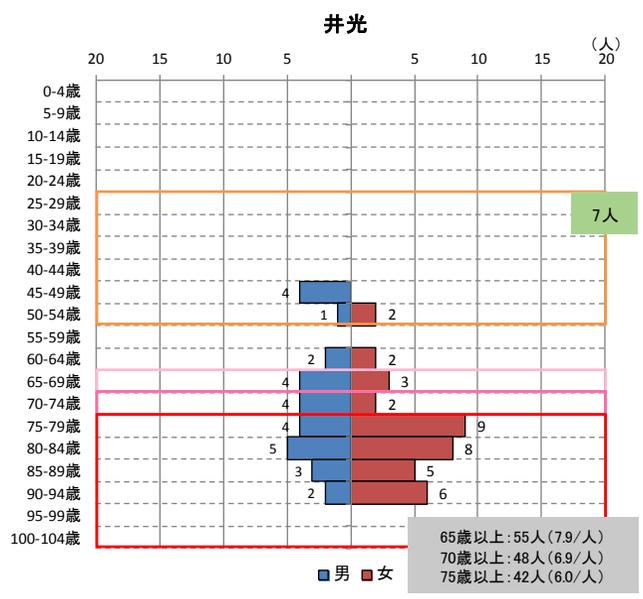
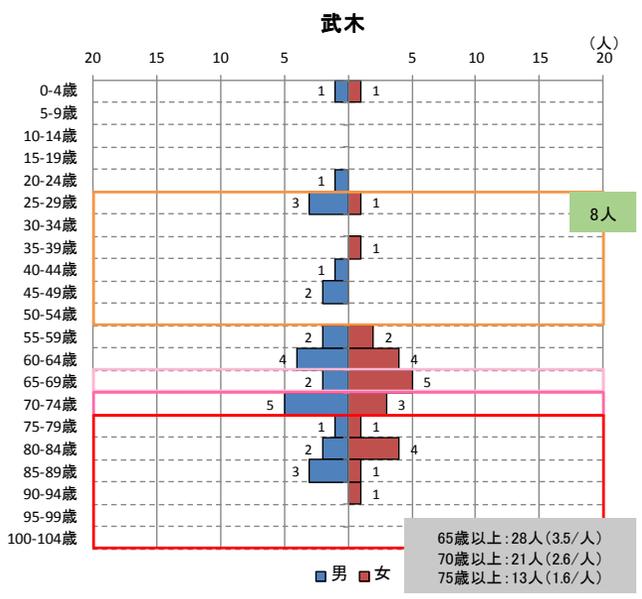
東部暮らしの拠点周辺地区
✓ 暮らしつづける郷(まち)づくり

西部産業・観光拠点周辺地区
✓ にぎわいと仕事の郷(まち)づくり

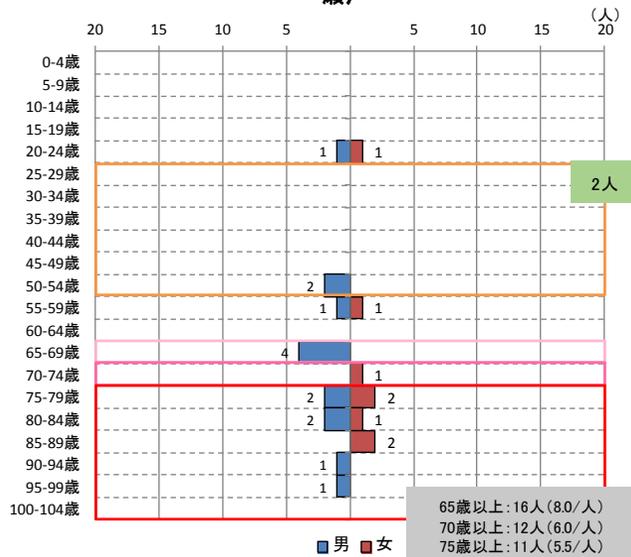
3. 東部地区の概況

(1) 地区別の人口

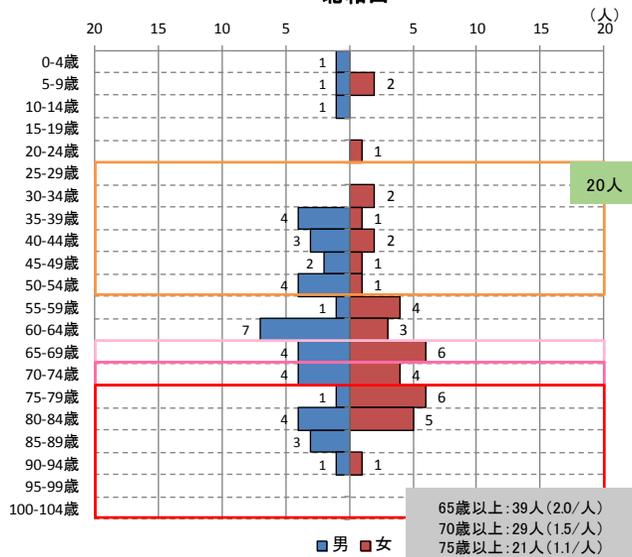
● 高齢化が進んでおり、東部地区15集落中人口20人を下回る集落が4集落あるなど、将来的にコミュニティ維持の困難が懸念される集落が多い。



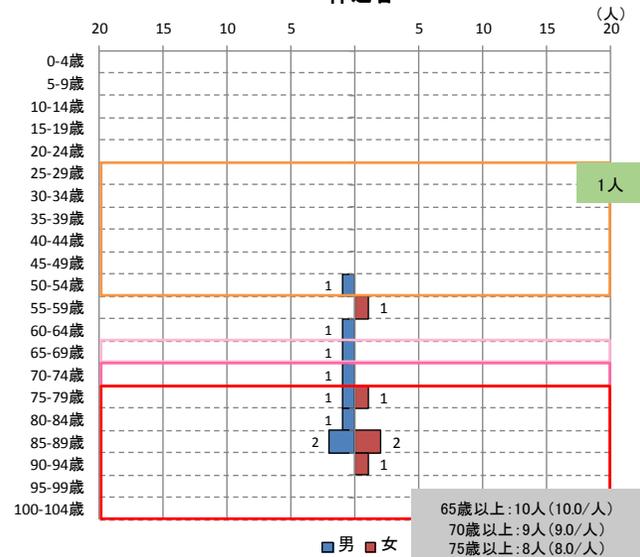
瀬戸



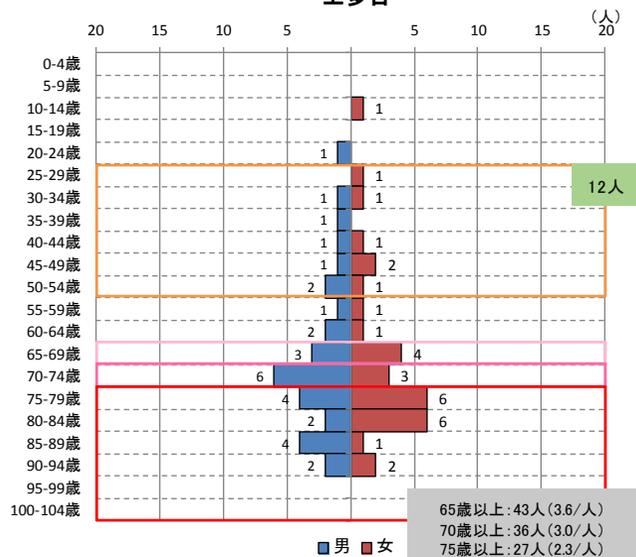
北和田



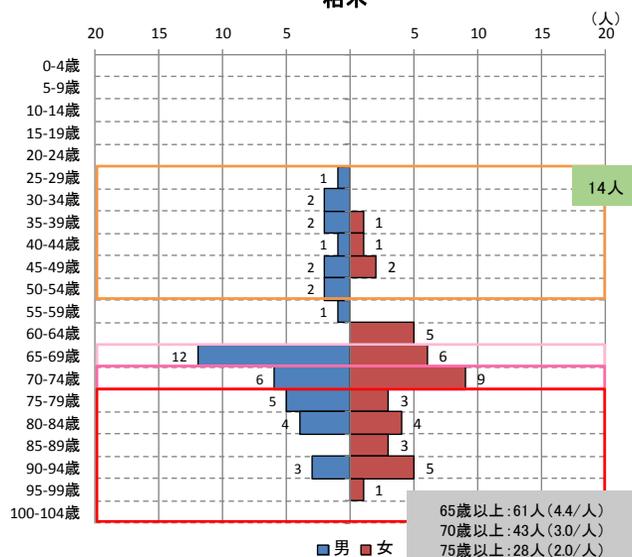
神ノ谷



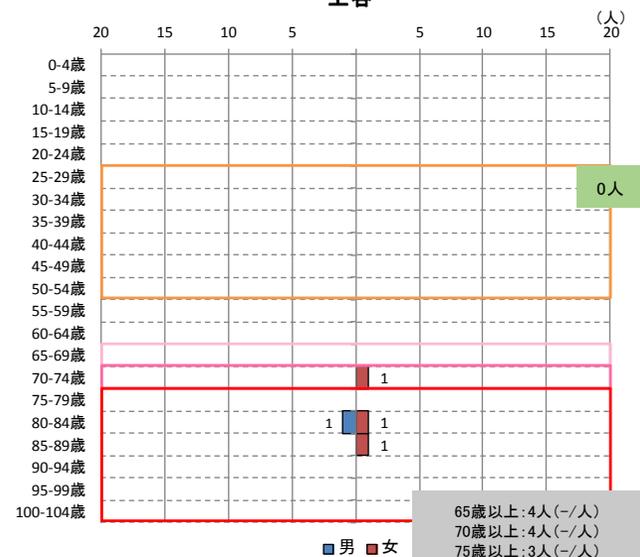
上多古

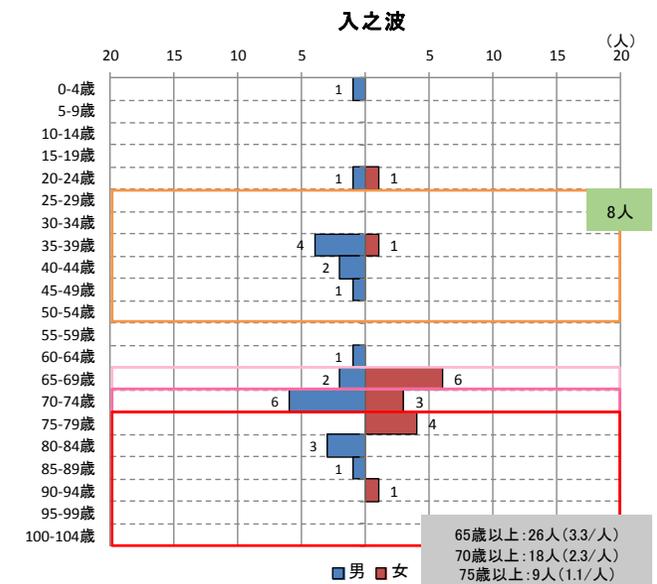
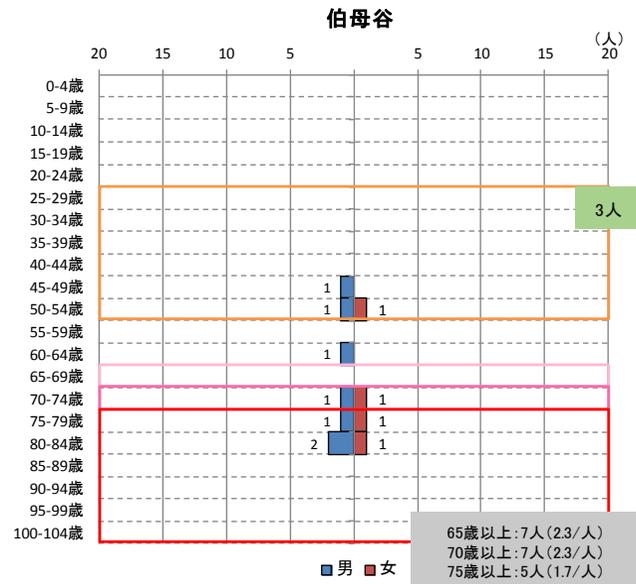
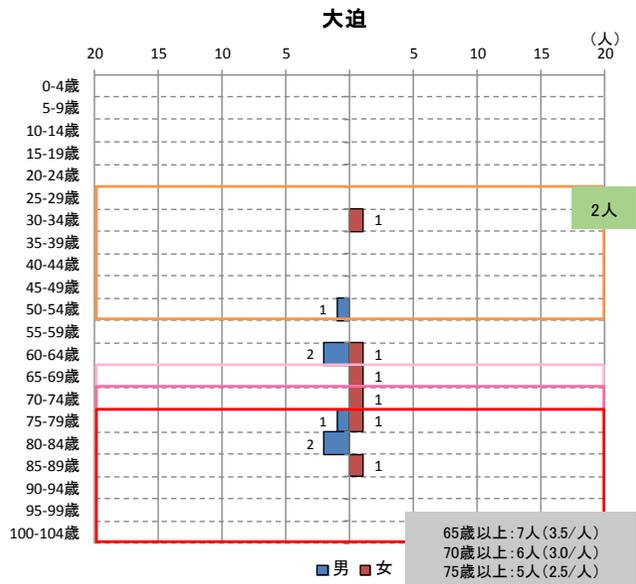


柏木



上谷





(2)要介護・要支援認定者比率

- 過疎化・高齢化が進む東部地区では、要介護・要支援認定者の割合が高い集落が西部地区、中部地区に比べて多い。



要支援1,2認定者の割合が高い／要介護1,2認定者の割合が高い／要介護3-5認定者の割合が高い

住民福祉課資料(H28.11.30)										
要介護、要支援の状況									要注意度	
要支援認定者 (要支援1,2合算)			要介護1,2認定者 (要介護1,2合算)			要介護3-5認定者 (要介護3,4,5合算)			合計点	注意ラ ンク
実数	比率 (対a)	点	実数	比率 (対a)	点	実数	比率 (対a)	点		
8	2.8%	2	11	3.8%	3	6	2.1%	3	8	C
7	4.2%	3	14	8.4%	5	5	3.0%	4	12	A
3	2.8%	2	3	2.8%	3	4	3.8%	4	9	B
1	4.2%	3	1	4.2%	3	0	0.0%	1	7	C
0	0.0%	1	0	0.0%	1	1	3.6%	4	6	D
2	9.5%	5	0	0.0%	1	0	0.0%	1	7	C
4	7.3%	4	1	1.8%	2	0	0.0%	1	7	C
0	0.0%	1	0	0.0%	1	4	7.0%	5	7	C
3	2.5%	2	3	2.5%	3	1	0.8%	2	7	C
1	2.6%	2	0	0.0%	1	0	0.0%	1	4	E
0	0.0%	1	1	3.7%	3	1	3.7%	4	8	C
1	2.0%	2	1	2.0%	3	1	2.0%	3	8	C
6	9.1%	5	5	7.6%	4	0	0.0%	1	10	B
3	10.7%	5	2	7.1%	4	1	3.6%	4	13	A
1	1.9%	2	1	1.9%	2	1	1.9%	2	6	D
1	2.9%	2	1	2.9%	3	1	2.9%	3	8	C
1	2.7%	2	1	2.7%	3	1	2.7%	3	8	C
1	4.5%	3	0	0.0%	1	1	4.5%	5	9	B
4	5.0%	3	2	2.5%	3	3	3.8%	4	10	B
2	15.4%	5	1	7.7%	4	1	7.7%	5	14	A
1	1.6%	2	2	3.2%	3	1	1.6%	2	7	C
3	3.7%	3	5	6.2%	4	1	1.2%	2	9	B
0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	3	E
0	0.0%	1	1	8.3%	5	0	0.0%	1	7	C
0	0.0%	1	1	9.1%	5	0	0.0%	1	7	C
0	0.0%	1	1	2.6%	3	0	0.0%	1	5	D
	3.7%			3.5%			2.1%		7.9	
	2.7%			2.8%			1.9%		7.5	
5=9.0%以上	5=8.0%以上	5=4.0%以上	A=11点以上							
4=6.0-9.0%未満	4=5.0-8.0%未満	4=3.0-4.0%未満	B=9-11点未満							
3=3.0-6.0%未満	3=2.0-5.0%未満	3=2.0-3.0%未満	C=7-9点未満							
2=0.1-3.0%未満	2=0.1-2.0%未満	2=0.1-2.0%未満	D=5-7点未満							
1=0.0%	1=0.0%	1=0.0%	E=5点未満							

(3)将来の生活

- 過疎化・高齢化が進む東部地区では、孤立の危険性が高い集落が西部地区、中部地区に比べて多い。
- また、平成28年に実施した「高齢者暮らしアンケート」(配布数853通、有効回答数690通、回収率80.9%)の調査結果をみると、介護が必要になったら村外の家族のところ、または村外の高齢者施設で暮らすと回答した高齢者の割合が高い集落が、西部地区、中部地区に比べて多い。

■孤立の危険度



■介護が必要になった場合に「村外」で暮らすといった人の割合

要注意の指標	「将来は村外」率	
	回答	点
東川	37.6%	3
西河	39.5%	3
大滝	32.0%	2
寺尾	27.3%	2
白屋	33.3%	2
北塩谷	0.0%	1
迫	40.9%	3
宮の平	35.7%	3
高原	27.3%	2
人知	53.3%	4
井戸	45.5%	4
武木	61.1%	5
井光	55.6%	5
下多古	41.2%	3
白川渡	39.1%	3
粉尾	75.0%	5
中奥	45.5%	4
瀬戸	57.1%	5
北和田	62.5%	5
神之谷	12.5%	1
上多古	31.4%	2
柏木	28.8%	2
上谷	0.0%	1
大迫	0.0%	1
伯母谷	0.0%	1
入之波	39.1%	3
平均値	35.4%	
中央値	38.4%	
「高」5点5=55%以上		
4点4=45-55%未満		
3点3=35-45%未満		
2点2=25-35%未満		
「低」1点1=25%未満		

出所	回答者数	孤立の危険性							
		一人暮らし率		介護等必要率		家族以外と話さない率(週3日以下)		要注意度	
		回答	点	回答	点	回答	点	小計点	注意ランク
東川	109	23.9%	2	8.3%	3	50.5%	4	9	B
西河	76	25.0%	3	25.0%	5	44.7%	3	11	A
大滝	50	16.0%	1	8.0%	3	52.0%	4	8	C
寺尾	11	36.4%	5	9.1%	3	54.5%	4	12	A
白屋	12	33.3%	4	0.0%	1	41.7%	3	8	C
北塩谷	5	40.0%	5	40.0%	5	100.0%	5	15	A
迫	22	31.8%	4	13.6%	4	36.4%	2	10	B
宮の平	14	28.6%	3	7.1%	3	28.6%	1	7	C
高原	55	30.9%	4	1.8%	2	43.6%	3	9	B
人知	15	26.7%	3	0.0%	1	33.3%	2	6	D
井戸	11	27.3%	3	0.0%	1	63.6%	5	9	B
武木	18	11.1%	1	0.0%	1	61.1%	5	7	C
井光	45	42.2%	5	6.7%	3	48.9%	3	11	A
下多古	17	23.5%	2	5.9%	3	76.5%	5	10	B
白川渡	23	43.5%	5	4.3%	2	34.8%	2	9	B
粉尾	24	41.7%	5	12.5%	4	29.2%	1	10	B
中奥	11	27.3%	3	0.0%	1	36.4%	2	6	D
瀬戸	7	28.6%	3	14.3%	4	28.6%	1	8	C
北和田	24	29.2%	3	4.2%	2	37.5%	2	7	C
神之谷	8	37.5%	5	0.0%	1	50.0%	4	10	B
上多古	35	14.3%	1	0.0%	1	42.9%	3	5	D
柏木	52	34.6%	4	13.5%	4	30.8%	2	10	B
上谷	4	50.0%	5	0.0%	1	25.0%	1	7	C
大迫	5	0.0%	1	0.0%	1	80.0%	5	7	C
伯母谷	5	20.0%	2	0.0%	1	40.0%	3	6	D
入之波	23	4.3%	1	0.0%	1	17.4%	1	3	E
平均値		28.0%		6.7%		45.7%		8.5	
中央値		28.6%		4.3%		42.3%		8.5	
「高」5点		5=35%以上		5=15%以上		5=60%以上		A=11点以上	
4点		4=30-35%未満		4=10-15%未満		4=50-60%未満		B=9-11点未満	
3点		3=25-30%未満		3=5-10%未満		3=40-50%未満		C=7-9点未満	
2点		2=20-25%未満		2=5%未満		2=30-40%未満		D=5-7点未満	
「低」1点		1=20%未満		1=0%		1=30%未満		E=5点未満	

(4)東部地区の小さな拠点と一般社団法人かわかみらいふ

- 「川上村まち・ひと・しごと総合戦略」の重点事業に位置付けられた「小さな拠点」が平成28年8月8日、東部地区の北和田地区に置かれている「川上村ふれあいセンター」に開設され、その運営主体として一般社団法人かわかみらいふが設立された。
- 「小さな拠点」では、主として東部地区の高齢者を対象に、食料品等を販売する移動スーパー事業、日用品を取り扱う宅配事業を行うほか、ふれあい交流カフェや保健師の常駐、医師により巡回診療を実施し、東部地区村民の暮らしを支えるサポート事業を展開している。



4. 地区の課題設定

<<東部地区の現況>>

<<東部地区の課題>>

<<対応する基本方針>>

(1)地区別の人口

- 高齢化と過疎化が進んでおり、東部地区15集落中人口20人を下回る集落が4集落あるなど、将来的にコミュニティ維持の困難が懸念される集落が多い。

高齢化と過疎化による集落機能維持に対する懸念

高齢になっても暮らし続けられる地区環境の整備

(2)要介護・要支援認定者比率

- 過疎化・高齢化が進む東部地区では、要介護・要支援認定者の割合が高い集落が西部地区、中部地区に比べて多い。

要支援および要介護者の増加

要支援・要介護になっても暮らし続けられる地区環境の整備

(3)将来の生活

- 過疎化・高齢化が進む東部地区では、孤立の危険性が高い集落が西部地区、中部地区に比べて多い。
- また、平成28年に実施した「高齢者暮らしアンケート」(配布数853通、有効回答数690通、回収率80.9%)の調査結果をみると、介護が必要になったら村外の家族のところ、または村外の高齢者施設で暮らすと回答した高齢者の割合が高い集落が、西部地区、中部地区に比べて多い。

加齢を要因とする孤立者増加に対する懸念

健康で豊かに孤立せずに暮らし続けられる地区環境の整備

介護等をきっかけとした村外転居の懸念

村外に転居しなくても暮らし続けられる地区環境の整備

(4)小さな拠点と一般社団法人かわかみらいふ

- 「川上村まち・ひと・しごと総合戦略」の重点事業に位置付けられた「小さな拠点」が平成28年8月8日、東部地区の北和田地区に置かれている「川上村ふれあいセンター」に開設され、その運営主体として一般社団法人かわかみらいふが設立された。
- 「小さな拠点」では、主として東部地区の高齢者を対象に、食料品等を販売する移動スーパー事業、日用品を取り扱う宅配事業を行うほか、ふれあい交流カフェや保健師の常駐、医師により巡回診療を実施し、東部地区村民の暮らしを支えるサポート事業を展開している。

小さな拠点における村民生活を支える機能の拡充

小さな拠点を核とした東部地区の暮らしを支える環境の整備

5. 郷(まち)づくりのコンセプト

<コンセプト> 暮らしの拠点を活用した「暮らしがつづく集落づくり」～北和田集落を拠点とした集落づくり～

【東部地区の拠点集落づくりと住み続けられる郷づくりの推進】

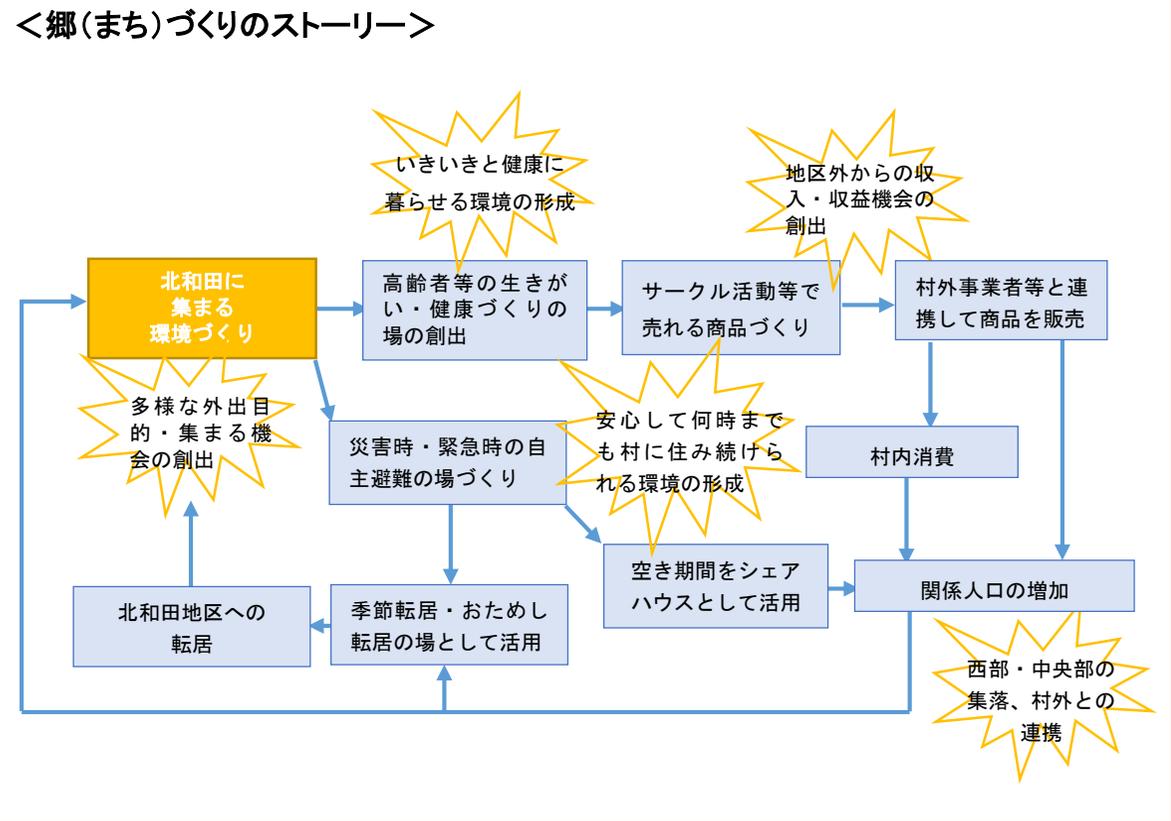
- 東部地区には人口20人を下回る集落が複数存在するなど、あまりにも小規模でコミュニティ維持が困難な集落や、支線沿いに形成された交通等の不便な集落も多い。
- 村民の村に住み続けたいというニーズに応えるためには、拠点となる集落に暮らしを支える機能を集約し、拠点集落と周辺集落を結びネットワークの構築が必要となる。

□ かわかみらいふを中心に機能強化を図る（暮らしを支える機能の強化）

- ✓ 東部地区の小さな拠点として機能している川上村ふれあいセンターと、その運営主体である一般社団法人かわかみらいふの機能強化を図り、暮らしを支える機能の充実を図っていく。
- ✓ 合わせて、拠点集落である北和田集落に足しげく通える健康づくりや生きがいづくりのソフト・ハードの環境づくりを進める。

□ 暮らしの基盤強化を図る（安心して暮らせる機能の強化）

- ✓ いくつになっても村に暮らし続けることができるよう、高齢者向け住宅の整備を図る。
- ✓ 空き家や空き地を活用して、災害警報発令時等に一時避難できる住まいを整備し、いざという時でも安心して暮らせる機能を創出する。



6. 郷(まち)づくりの基本方針・基本となる取組

<<対応する基本方針>>

高齢になっても暮らし続けられる地区環境の整備

要支援・要介護になっても暮らし続けられる地区環境の整備

健康で豊かに孤立せずに暮らし続けられる地区環境の整備

村外に転居しなくても暮らし続けられる地区環境の整備

小さな拠点を核とした東部地区の暮らしを支える環境の整備

高齢になっても住み続けられる住まいの整備

- ◆ 高齢者向け住宅の整備
 - ・ 加齢による健康不安等があっても生まれ育った村で暮らせるバリアフリーな住まいの提供

要支援・要介護になっても住み続けられる生活サポート事業の整備

- ◆ 暮らしを支えるサービスの提供
 - ・ 日常の暮らしを支えるサービス機能の整備
- ◆ 見守り機能の強化
 - ・ 保健師の常駐・巡回機能を強化し、日常生活からの見守り機能を強化する。

健康・コミュニティ事業の開発

- ◆ 村民農園の整備
 - ・ 耕作放棄地を集約して村民農園として貸し出し、土と親しむことを通じて村民の健康づくりと、元気に北和田に通う楽しみを醸成する。

交通のネットワークの強化

- ◆ 道路整備
 - ・ ふれあいセンターの前にバスを停車させるための道路整備
- ◆ 交通ネットワークの充実
 - ・ 村のバス事業(にこにこ号)を見直し、各集落と北和田を結ぶ交通ネットワークを強化する。

空き家・空き地を活用した新たな住まいづくり

- ◆ 定住促進住宅・お試し住宅の整備
 - ・ 空き家・空き地の一団地開発等を通じて多世代型の定住促進住宅・お試し住宅を整備。
- ◆ 一時避難住宅の整備
 - ・ 旧川上東小学校の2~3階を一時避難住宅として整備。整備では大阪工業大学と連携してリノベーション事業を通じて整備。平時は一時滞在型のシェア住宅としても活用。

ふれあいセンター、かわかみらいふの強化

- ◆ 防災機能の強化
 - ・ 非常用電源や投光機のほか、生活必需品の整備など良好な生活環境を兼ね備えた「避難所」として整備。

- ◆ 健康・コミュニティ事業の強化
 - ・ 「小さな拠点」(ふれあいセンター)の調理設備の充実を通じて、気軽にパンやお菓子づくり等を楽しめる環境をつくり、北和田に集まる機能を拡充。将来的には高齢者等による売れる商品に発展。
 - ・ 出張診療や健康体操のほか、各種イベントを「ふれあいセンター」での開催を誘導し、北和田に通う楽しみ機会を拡充。

7. 基本構想図



- ◆ 道路整備
 - ・ ふれあいセンターの前にバスを停車させるための道路整備
- ◆ 交通ネットワークの充実
 - ・ 村のバス事業(にこにこ号)を見直し、各集落と北和田を結ぶ交通ネットワークを強化する。

- ◆ 防災機能の強化
 - ・ 非常用電源や投光機のほか、生活必需品の整備など良好な生活環境を兼ね備えた「避難所」として整備。

機能
592

- ◆ 定住促進住宅の整備
 - ・ 空き地の一団地開発を通じて多世代型の定住促進住宅を整備。

- ◆ 健康・コミュニティ機能の開発
 - ・ 「小さな拠点」(ふれあいセンター)の調理設備の充実を通じて、気軽にパンやお菓子づくり等を楽しめる環境をつくり、北和田に集まる機能を拡充。将来的には高齢者等による売れる商品に発展。
 - ・ 出張診療や健康体操のほか、各種イベントを「ふれあいセンター」での開催を誘導し、北和田に通う楽しみ機会を拡充。

- ◆ 高齢者向け住宅の整備
 - ・ 加齢による健康不安等があっても生まれ育った村で暮らせるバリアフリーな住まいの提供

- ◆ 村民農園の整備
 - ・ 耕作放棄地を集約して村民農園として貸し出し、土と親しむことを通じて村民の健康づくりと、元気に北和田に通う楽しみを醸成する。

- ◆ お試し住宅の整備
 - ・ 空き家・空き地の一団地開発等を通じて多世代型のお試し住宅を整備。

上多古

北和田

対象区域

- ◆ 暮らしを支えるサービスの提供
 - ・ 日常の暮らしを支えるサービス機能の整備
- ◆ 見守り機能の強化
 - ・ 保健師の常駐・巡回機能を強化し、日常生活からの見守り機能を強化する。

- ◆ 一時避難住宅の整備
 - ・ 旧川上東小学校の2～3階を一時避難住宅として整備。整備では大阪工業大学と連携してリノベーション事業を通じて整備。平時は一時滞在型のシェア住宅としても活用。

